

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
鹿沼市	粟野地区（口粟野、中粟野、入粟野、柏木）	令和3年 3月25日	令和6年 3月31日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	268.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	231.1ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	78.9ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.6ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	34.7ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.5ha
(備考)	

注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

- ・口粟野の担い手耕作率は約2割となっているが、中粟野・入粟野と奥に進むほど担い手耕作率は下がっていく。口粟野の南に位置する柏木は中心経営体の耕作はないものの、中～大規模経営の農家による耕作が行われている。
- ・いずれの集落も獣害が多く、遊休農地があっても代わりに耕作をしようとする農業者受け入れの妨げになっているほか、高齢化による後継者不足も課題。
- ・中粟野、入粟野は一部中心経営体による営農がされているが、集落の奥に進むほど遊休農地が増えつつある。特に、粟野地区の奥に位置する入粟野は木々が伸び、日照に影響が出ている農地や荒廃により農地に戻すのも困難な箇所も見受けられる。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・3集落共通して、行政と連携を図りながら獣害防止策を講じていき、被害の減少を図ることで、農業者の作付け意欲の低下を防ぐ。

- ・口粟野・柏木については、基盤整備されている区域は、中心経営体や中～大規模農家による営農がされている。そうした農地について、高齢化等により作付けがされなくなったときには、現在の地域の営農者で集積・集約化し、地域の営農維持を図る。

- ・中粟野・入粟野については、地域で維持していく農地を明確にしていく。その農地が空き農地になった場合において、地域で引き受けが困難なときは、農地を良好な状態で維持できるよう地域全体で保全を図り、他地区からの受け入れについても検討する。

注1： 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。